

第一場 ●—— 社会貢献意識の向上

- 一 市民一人ひとりが、“協働”の考え方を共有し、みんなの理解と思いやりのもとに、お互いが支え合う社会づくりに貢献することが期待されます。
- 二 自発的かつ自然体でまちづくりに参画でき、自己実現を図ることのできる環境を、ともに築いていくことが大切です。
- 三 自治活動や市民活動への理解と連携を深め、まちづくりに積極的に参画することが期待されます。

[解説]

「自発的な社会貢献活動意識の醸成」

市民一人ひとりが、自発的、自然体で積極的に社会貢献活動に参画できる環境が必要です。それにはまず、お互いの理解と思いやり、そして「補完性の原則」のもとに、社会に貢献することの意義を、改めてみんなで認識することが大切です。

「一人ひとりの自覚」

「平和を基調としながら、人権を尊重し合い、家族、地域社会、人類、自然、生物への深い愛情」をはぐくむとともに、「子どもたちが主体性と社会性ある人間として個性を磨き合い、健やかに成長できる社会」と「すべての市民が安全で安心して健康で豊かな生活を追求できる環境」を築くため、また、「精神的な豊かさを追求できる日常環境」を実現するため、広くまちづくりに対して市民一人ひとりが進んで役割を担っていくことが期待されます。

「自治活動や市民活動への理解」

住民一人ひとりが、地域型コミュニティや目的型コミュニティへの理解を深めることが大切です。地域を構成する主役として、地域が抱える課題を地域の中で解決するため、主体的にその課題を知り、あるいは学び、その成果を生かして自治活動に参加し、行動することが期待されます。

「まちづくりの芽を発見することから始めよう」

「批判から提言へ、提言から行動へ」という言葉が示すように、まちづくりの課題の発見から解決(発見・協議・計画・合意・理解・実践・評価)まで、住民が主体的にまちづくりに参画することが期待されます。